

健康知恵袋

40歳すぎたら大腸がん  
検診を受けましょう！

大腸って？

大腸は消化吸収された残りの内容物を腸のため、水分を吸収しながら大便にするところです。約2メートルの長さがあり、結腸・直腸・肛門からなります。

大腸がんとは？

大腸がんは、大腸粘膜の細胞から発生し、「ポリープ（腺腫Ⅱせんしゅ）」という良性の腫瘍の一部ががん化して発生したものと、正常粘膜から直接発生するものがあります。

粘膜炎の表面から発生し、大腸の壁に次第に深く侵入していきます、進行するにつれて、リンパ節や肝臓や肺などの臓器に転移します。

がん死亡原因として男性では第3位、女性では第1位となっています。また、大腸がんにかかる割合は、50歳代から増加し始め、高齢になるほど高くなります。

症状

大腸がんの症状は、血便、下血、下痢と便秘の繰り返し、便が細い、便が残る感じ、おなかが張る、腹痛、貧血、原因不明の体重減少などがあり、中でも最も頻度が高いのが、血便です。痔など良性疾患でも同じような症状があります。自己診断せず、早めに消化器科、胃腸科、肛門科などを受診することが大切です。

大腸がん検診

黒潮町では、便潜血検査を実施しています。（排便容器を配布し、配布から3日間のうちに2回排便し、その容器を提出していただいています。）

平成22年度は、大方地区において、10月19日から各地区で実施します。詳しい日時・場所については広報「健康カレンダー」などによりご確認ください。ご都合の良い場所で受けることも可能です。

※佐賀地区は、5〜6月に実施し、終了しています。

【対象者】（平成22年度）40歳以上

【料金】500円

※70歳以上の方は無料です。

黒潮町の大腸がん検診受診状況

年度	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	
平成20年	男	3,908	561	14.4
	女	4,911	888	18.1
	計	8,819	1,449	16.4
平成21年	男	3,853	577	15.0
	女	4,909	898	18.3
	計	8,762	1,475	16.8

大腸がん検診により、症状が出る前に早期発見が可能になります。定期的に大腸がん検診を受診し、がん予防に努めましょう。

お問い合わせ

本庁 健康福祉課 保健衛生係  
☎ 43-2836(直通)  
佐賀支所 地域住民課 保健センター  
☎ 55-7373(直通)

高知大学医学部だより

【テーマ】 反復する中耳炎

鼻の奥には、耳管(じかん)という鼻と耳をつなぐ管があります。急性中耳炎は、鼻や鼻の奥の炎症が耳管を経由して、中耳に急性に感染がお

こる病気です。

最近、幼小児で急性中耳炎を短い期間で繰り返し『反復性中耳炎』が問題となっています。小児急性中耳炎ガイドライン2009年度版では、「半年の間に3回以上、1年の間に4回以上の急性中耳炎にかかるもの」としています。反復するだけでなく治りにくいため苦労する病気です。その原因については、いくつか挙げられています。

まず、抗生物質のききにくい耐性菌の出現です。急性中耳炎をおこす細菌の代表的なものは、鼻やのどの炎症の原因にもなる肺炎球菌とインフルエンザ菌です。これらの細菌の耐性菌が最近増えていきます。通常の薬剤では完全に除菌できず、炎症が残ること、短い期間に中耳炎を再発することになります。また、初めの中耳炎が2歳以下の場合、その後中耳炎を繰り返すことが多くなります。2歳ごろまでは感染に対する抵抗力が未熟なので、成長し抵抗力が備わるまで炎症を繰り返すこととなります。もうひとつ問題となっているのは、早期からの集団保育といわれています。

す。同じ年齢の子どもたちが密に接しているため、免疫力が未熟なうちに鼻やのどの感染にかかりやすく、耐性菌感染の機会も多くなります。そのほかの要因として、アレルギー体質のため鼻炎や喘息などで鼻やのどの炎症を反復する、さらに家族の喫煙により受動喫煙となり鼻やのどの粘膜を傷め炎症をおこしやすい、などが考えられています。

治療は、まずは、中耳炎の原因菌に効果のある抗生物質の使用です。先に述べた肺炎球菌やインフルエンザ菌の耐性菌に効果のある抗生物質も開発されており、効果が期待できます。鼻やのどの炎症などの治療も行います。鼓膜切開や鼓膜チューブ留置術も治療のひとつです。そのほか体調不良時の全身ケアや家族の禁煙など、ご家族ができることから対応されることも大切です。

【著者プロフィール】



高知大学医学部附属病院  
耳鼻咽喉科 助教授  
弘瀬 かほり